

OASIS の風

ナーシングホーム Japan

-hear your heart-

R5年



入居者様の声

**M・M様：70代女性：進行性核上性麻痺：ナーシングホーム JAPAN 入居中
コミュニケーション支援機器の利用なし**

1週間に1回程度、STさんとの訓練を実施しています。訓練の内容は、呼吸発声訓練、嚥下訓練です。鼻からの息漏れを軽減させ、言葉を聞き取りやすくすることや、食事のむせこみ予防をしています。目標は、現在の機能を少しでも長く維持して、嚥下状態を悪化させない事です。

M様は、ご夫婦で料理屋を営まれており、また寮母の仕事もされておりました。

自宅で転倒され、診断されてから5年ほど経ち、独居が困難となり、令和3年12月にナーシングホーム JAPAN に入居されました。入居当初は、歩行器にて自室内の生活をしていたため、転倒があり、見守りも必要でした。しかし、部屋の中は車いすを使用することをご自身で決断され、自立した生活が送れるようになりました。また、リハビリメインのデイサービスから、レクリエーションをメインとしたデイサービスに変更し、今の生活をもっと楽しむ方向へと、気持ちを切り替えられ、安定した穏やかな生活をされています。

今後叶えたいことは、一人で散歩に行く、北海道にいる友達に会いに行く事です！

日々の食事の状況や嚥下機能の状態の観察をし、STさんへも情報共有していく事で、現状の生活状況を維持しながら、楽しく生活をしていただけるように支援してまいります。



スタッフの声

**Sさん：訪問介護士
ケアコール千種所属：2年目**

私はナーシングホーム JAPAN に入社して2年目の介護職員です。終末期の介護や看取りに携わる業務は初めての経験で、学びが多く奮闘しております。

コミュニケーション支援プロジェクトの参加に声を掛けていただいた時、私は口下手で対人関係が得意ではないので、お断りしていました。しかしコミュニケーションへの苦手意識が強いからこそ、出来ることではないかと思い直し、担当することに致しました。コミュニケーション支援の活動を通して、全ての利用者様に心が通う介護が出来るように、気付きや感覚を高めていきたいと思っております。

トピックス

【発声や嚥下のリハビリ】

ナーシングホームには、ST（言語聴覚士）が在籍しています。各ホームを回り、嚥下や発声のリハビリが必要な方の評価や訓練の指導を行っております。

訪問看護・訪問介護との情報共有を密にする事で、日々の訓練内容や生活する上での注意点などを知る事ができるので、関わる職員皆でリハビリのサポートをする事ができます。

